

◇ 国 語

国 5－1～国 5－19 まで 19 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

不安には現実的な不安と神経症的不安の二種類があります。

この二つを混同してしまうと、それぞれの不安に対してユウコウな対処法を取ることができません。

例えば、新型コロナウイルスの問題というのは、現実的な不安です。コロナウイルスに感染したら困るので、これはリアルな不安といえるでしょう。

いまの給料で、多額のローンを組んでしまつて大丈夫だろうか、というのも現実的な不安です。

もちろん、こうした現実的な不安も問題ですが、より深刻なのは、もう一つの神経症的不安のほうです。こちらは現実には怖くないものを怖いと思つて、怯^{おび}えているような不安です。日常生活ではこれが非常に大きな問題になるわけです。

次のような実験があります。ライオンが襲つてきても、絶対に破れない硬いガラスの壁があるとします。片側に人がいて、ガラスで隔てた反対側にライオンがいる。そして、向こうからライオンが走ってくる。

絶対に破ることができないガラスで隔てられているので、理性ではライオンは自分に危害を加えられないということが分かっています。しかし、そのように分かっていたとしても、実際にライオンが飛びかかってくると、ほとんどの人が「うわっ」と逃げてしまうはずです。

このように人間には、現実には怖くないと分かっているにもかかわらず、怖いという不安をどうすることもできない場合があります。

私は、神経症的不安とは、自分が自分でない、というところから生まれてくる不安であると思っています。

ア な問題がなくても、常に不安に怯えている人がある。いつも人が信じられず、恋愛しても恋人に振られてしまうのではないかなど、いつも何かに悩んでいる。

神経症的不安を抱えている人は、常にそうした理屈に合わない不安を感じています。いつまでもくよくよ悩んでいても、

どうしようもないことは本人もよく分かっています。しかし、分かっているだけでは、自分ではどうすることもできません。

a、現実にはそれが恐怖かどうかではなくて、本人がそれを恐怖と感じるか感じないかが問題なのです。

不安には、現実的な不安と神経症的な不安の二つがあると述べましたが、この二つは、きちんと分けておかねばなりません。

現実的な不安をフロイトは「客観的不安」と呼び、ロロ・メイは、これを「正常な不安」と言っています。きちんと具体的に対処することで、解消しなければいけない不安です。こうした不安に対して、無理に勇敢なふりをするのは愚かなことです。

一方で、現実には怖くないものに怯える神経症的な不安というのは、心の内面の問題です。現実には怖くないものを、怖いと思込んでいるのですから、自分がどうしてそういう性格になってしまったのかを、まず考えなければなりません。

「こんなことで怯えていたら、みんなに弱虫と思われるのではないか？」「周りの人が自分のことを臆病おくびょうと思うのではないか？」。

そんなふうに一人で勝手に思い込み、あえて勇敢に見える行動を無理にするのは、まさに神経症的な不安を持つ人です。

繰り返しますが、現実的な不安と神経症的な不安は別のものであり、二つの区別をしっかりとっておかないと、対応を間違えてしまうことになります。

世の中には、「死んでも不幸を手放しません」というような人がいます。多くの人は「まさか」と思うでしょうが、私は半世紀以上もの間、悩んでいる人と接してきて、そのような人がいると、つくづく感じているのです。

なぜこうなるのでしょうか？

それは人がもつとも恐れるのは不幸ではなく、不安だからです。

それは人がもつとも求めるのは幸せではなく、安心だからです。

不幸になるために費やされる努力やエネルギーは、実は不安から逃れるための努力やエネルギーにほかなりません。

人は誰でも幸せになりたいと願います。

b

、幸せになりたいという願望よりもはるかに強いのが、不安から逃れたいという願望です。不安な人は頑張つて不幸になる場合があります。

お金で幸せになれることは、誰でも知っています。

権力で幸せになれることは、誰でも知っています。

名声で幸せになれることは、誰でも知っています。

それでも人は、それらを求めるのです。

人が必要以上の大金を求めるのは、お金があれば安心できると思い込んでいるからで、それは不安から逃れるためです。このように安心への願望はすべてに優先します。

ギャンブル依存症の夫がいるとしましょう。その夫は働かないばかりか妻がパートで働いたお金まで巻き上げ、妻の親戚にまで借金をして、またギャンブルに行つてしまふ。そして家に帰ってきたら、暴力ばかり振るいます。

こうなったら、もう別れればいいと誰でも思うでしょう。この状態で離婚をセイキユウして、「いや、離婚は認めません」ということはサイバン上あり得ません。

ところが、こうしたケースでも、ほとんどの女性が離婚しようとはしないのです。ギャンブル依存症の夫を持つ妻の調査をしてみると、日本でもアメリカでも、多くの人が「私が何とかしてあげなければ」と考えるといひます。

こういうことかといへば、実は「何とかしてあげたい」から別れないのではなく、本当は一人になるのが不安だから、別れないのです。これは「イ」^①という心理です。不安から逃れるために別れないことを「何とかしてあげたい」ということにして、自身で納得しようとしているのです。

離婚した先の人生がどうなるか不安である。それよりは、いまの慣れた不幸のほうが生きやすい。こうなると、「死んでも不幸を手放しません」ということになってしまいます。

人間が一番怖いのは不幸ではなく、不安というのは、こういうことなのです。

人が何よりも求めているものは安心です。安心は生きる土台です。

c 人は、不幸と不安と、どちらを避けるかというと、やはり不安を避けて不幸を選ぶのです。

我々はみんな「幸せになりたい」と思っていますし、そう口にもします。しかし、実際には幸せになれない場合も多いのです。なぜかという、不安か不幸かという二者択一で、ほとんどの人は不幸を選んでしまうからです。

「自分がもつとも恐れているのは不安」というこの事実を理解しておかないと、自分の不幸を正当化してしまいます。

(略)

安心を求める願望はすべてに優先するという事実は、逆にいうと、不安を避けたいという願望はすべてに優先するという事です。したがって、「死んでも不幸は手放しません」などと聞くと、「そんな愚かな人が世の中にいるものか」と思うかもしれません。が、ジョウダンではなく本当にそういう人はたくさんいます。

命がけで不幸にしがみつく人はいくらでもいるのです。

そして、それは周りから見ると、不幸にしがみついているように見えますが、心理的には安心したいという願望にしがみついている状態です。

このように、世の中には努力に努力を重ね、不幸な人生をわざわざ送ってしまう人が本当にいるということです。「悪いことばかりしているから、それはしょうがないね」ということであれば話は別ですが、そうではありません。本当に真面目に働いて、社会的にテキオウして、きちんと生活しているにもかかわらず、不幸になる人がいるのです。

そうした努力は、不幸になるための努力みたいなものともいえるのかもしれませんが。

(略)

ギャンブル依存症の夫を持つ妻と似たような例ですが、以前、幸福について講演した時に、アルコール依存症の夫を持つ妻に

ついて話したことがあります。

アルコール依存症の夫と離婚した女性が口にするのは、「もうアルコール依存症の人は嫌だ」という言葉です。「お酒ばかり飲んで、すぐに暴力を振るう。どうしようもない」と言う。そして「もうアルコール依存症の男性とは一生かかわらない」とも言います。

d、アルコール依存症の夫と離婚した妻のその後を調査してみると、驚くことに半分の人が、同じ依存症の男性と再婚していました。

これは、意識の上では「アルコール依存症の人は嫌だ」と言っていますが、そんなことよりも、一人でいることの不安のほうをもっと怖いということです。もっといえば、不安というのはそのぐらい強いもので、不安を避けられるなら、自分の本当の感情はどうでもいいと心の底で思ってしまうくらい強力なのです。

繰り返しますが、不安というのは人間にとってそれほど強く、すさまじい感情なのだとこのことを理解してください。それほどすさまじい感情が、その人の人生を長い期間にわたり、陰から支配し続けています。いまの時代は、その不安の感情が非常に大きくなってきました。だから、みんなが本当の感情を偽り始めているのです。

無意識にこそ、自分の本当の感情があります。

本当の感情とは自発的な感情です。「寂しいから、あの人を好きになる」というような感情ではありません。人を好きになるのは寂しいからではなくて、自発的に人を好きになり、また自発的に人を嫌いになるのです。

本来、人にはこの自発的な感情があります。ところが、この本当の感情に気がついていない場合があります。

本当の感情とは、自身が意識している自分の感情とは違います。我々は、「自分が意識している自分＝本当の自分」と思っていますが、そんなことはありません。「自分が意識している自分」というのは、実は本当の感情を偽っている自分であるという場合が多いのです。

では、何が自分自身の本当の感情を無効にしているかというと、それはやはり不安なのです。不安の範囲は深く広いので、我々の本当の感情はどんどん無効化されてしまいます。そうやって我々は本当の感情ではない、偽りの感情で生き始めるのです。

（加藤諦三『不安をしずめる心理学』による）

問一 傍線部 A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A ユウコウ

- ① シュコウしかねる意見
- ③ コウバイの急な坂道
- ⑤ 作品の Kou セツを問わない

- ② 条約がハツコウする
- ④ 親にコウコウをする

1

B セイキユウ

- ① 許可をコンセイする
- ③ 十字軍の大エンセイ
- ⑤ セイヒンに甘んじる

- ② セイゼツな争い
- ④ セイミツな機器

2

C サイバン

- ① 松のボンサイ
- ③ テイサイを取りつくろう
- ⑤ サイケンに投資する

- ② デパートのサイジ場
- ④ レイサイ企業で働く

3

D ジョウダン

- ① 目的をジョウジュする
- ③ 休日をヘンジョウして働く
- ⑤ 土地をブンジョウする

- ② ジョウチヨウな文章
- ④ 水分がジョウハツする

4

E テキオウ

- ① 大海のイツテキ
- ③ タンテキに説明する
- ⑤ 名人にヒツテキする実力

- ② 蒸気機関車のキテキ
- ④ 悠々ジテキの生活

5

問二 空欄 ア・イ に入る語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

①慢性的

②感覚的

③潜在的

④具体的

⑤内面的

6

イ

①合理化

②形骸化

③組織化

④相対化

⑤単純化

7

問三 空欄

a

— b

、

c

—

d

各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の

a

—

b

①要するに — たとえば

②そして — すなわち

8

③つまり — しかし

④従って — ならば

⑤ところが — けれども

c

—

d

①そして — ともあれ

②ただし — ところで

9

③そのため — さらに

④しかし — ちなみに

⑤だから — ところが

問四 傍線部（a）「努力に努力を重ね」とあるが、その意味を表す四字熟語としてふさわしくないものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

①粒粒辛苦

②力戦奮闘

③粉骨碎身

④切磋琢磨

⑤汗牛充棟

10

問五 傍線部（二）「神経症的不安」とあるが、その具体例として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

①残業が続き、常に疲労を感じているサラリーマンのAさんは「近い将来、過労死してしまうのではないか」という不安に襲われた。

②ホラーゲームをした後、布団に入った大学生のBさんは「寝ている間に、誰かに首を絞められるのではないか」という不安に襲われた。

③同居家族が新型コロナウイルスに感染したと知った高校生のCさんは「実は自分もすでに感染しているのではないか」という不安に襲われた。

④近所の動物園から虎が脱走したというニュースを見た小学生のDさんは「自分の家の前にも虎がやってくるのではないか」という不安に襲われた。

11

問六 傍線部（二）「対処法」とあるが、「神経症的不安」への対処法として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

12

- ① 不安な気持ちをいったん保留しておいて、まずは「今できること」に集中して取り組むことが大切である。
- ② 不安な気持ちにフォーカスすることをやめ、あえて何事にも動じていないようにふるまうことが大切である。
- ③ 自分の内面と向き合い、怖くないものに対して不安を感じるようになった原因を考えることが大切である。
- ④ 自分が感じている不安を客観的に見つめ直し、悩んでいても何も解決しないと理解することが大切である。

問七 傍線部（三）「こうしたケースでも、ほとんどの女性が離婚しようとはしないのです」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

13

- ① ギャンブル依存症の夫が独力で立ち直ることは難しいと知りながら、相手から離れることに罪悪感を覚えるため。
- ② ギャンブル依存症の夫に離婚を切り出した際、家庭内暴力がさらにひどくなるかもしれないという不安があるため。
- ③ ギャンブル依存症の夫を献身的に支えることで、自分が人の役に立っているという実感を持つことができるため。
- ④ ギャンブル依存症の夫と離婚できても、その後の人生がどうなるのかわからないという心配がつきまとうため。

問八 傍線部(四)「本当の感情を偽り始めている」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

14

①人には自然と湧いてくる「本当の感情」があるが、強大な不安を避けようとするあまり、「本当の感情」を封じ込めるケースが増えてきているということ。

②人は誰しも不安という「本当の感情」を抱えているが、その感情と向き合うのが怖いために、自分の心にはまるで不安など存在しないかのようにふるまう人が増えてきているということ。

③人には自分では意識していない「本当の感情」があるが、現代ではその感情がネガティブ化しているために、不安にとりつかれるケースが増えてきているということ。

④人には本来「本当の感情」を自覚する力があるが、不安が人の心を支配しようとするがゆえ「本当の感情」を正しく認知できないケースが増えてきているということ。

問九 本文の内容と合致するものを、次の①～④の中から一つ選べ。

15

①不安には「現実的な不安」と「神経症的な不安」があり、日常生活においては後者の方がより深刻である。従って、「神経症的な不安」の解決を優先的に考えていく必要がある。

②世の中には懸命に努力を重ねても不幸になる人たちがいる。その理由は、安心を得たいがために、それを持っていたても本当に幸せにはなれないものを必死で求め続けるからである。

③不安は非常に強くすさまじい感情である。ただし、不安という感情があるからこそ、人は物事に対して慎重な判断を下すことができ、適切に自己実現をしていくことが可能となる。

④人間はみな不幸になりたくないという強い願望を持っている。それゆえ、「多少不安があろうとも、幸せになれるのであればそれでよい」として不安の影響力を軽視しがちである。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

カステラは和菓子なのか、洋菓子なのか。日本に古くからある饅頭^{まんじゅう}や桜餅を和菓子と呼ぶのはもつともだが、大航海時代の安土桃山時代（一五六八～一六〇〇）にポルトガル人によってもたらされたいわゆるナンパン菓子カステラはどうだろうか。イエズス会の修道士たちはキリスト教^キキョウのために使ったという記述もある。この来歴からすればカステラはあきらかに洋菓子（西洋菓子）のはずだが、五百年の間にすっかり日本になじんで今では和菓子にも見える。

ふはふはとカステラ切らん花曇り

櫂

ある日、前から気になっていた疑問を解き明かす機会が訪れた。二〇一〇年の梅の花のころ、和菓子をめぐる座談会が東京赤坂の虎屋の会議室で開かれた。和菓子業界の団体、全国銘産菓子工業協同組合の主催。出席者は日本人の食文化研究の第一人者、熊倉功夫さん、イラストレーターの安西水丸さん、そして私。三人それぞれ和菓子との出会いや全国各地に伝わる和菓子についてなごやかに話が進んで座談会もたけなわのとき、ふと思いついた長年の疑問を持ち出してみた。

「和菓子と洋菓子は何によって分けるのですか。チョコレートやショートケーキは洋菓子とされていますが、カステラや金平糖は和菓子なのか、洋菓子なのか……。」

下手をすれば座談会の根底を揺がし、冷水を浴びせることになりかねない不躰^{ふしつげ}な質問に、熊倉さんだったか、ソクザに答えがかえってきた。

「ああそれは江戸時代の終わりまでに日本で完成していたお菓子が和菓子です。ナンパン菓子のカステラも金平糖も和菓子ですね。」

慶応三年（一八六七年）、江戸幕府十五代将軍徳川慶喜は十五歳の明治天皇に政権をへん^{へん}ジョウ上した。このとき鎌倉幕府以来七百年近くつづいた「幕府」という日本の軍事情権が終わりを告げ、天皇を頂点とする中央集権の近代国家が誕生した。大政^{だいせい}ホウカンである。

「江戸時代の終わりまでに完成していたお菓子」とは正確に言えばこの日までに完成していたお菓子ということになる。そうであればヨーロッパ渡来であろうが和菓子、この日以降に西洋（ヨーロッパとアメリカ）から伝わったお菓子は洋菓子ということになるだろう。

江戸時代の終わりまでという時期による和菓子と洋菓子の区分け、これは ア な理念だけの問題ではなく、具体的な現実の問題でもあるという。早い話、和菓子屋の業界団体にカメイするには当然、和菓子を作っていないなければならない。その「和菓子」とは江戸時代の終わりまでに完成していたお菓子でなければならないということである。お菓子屋が協同組合に入りたくても、その店が作っているお菓子が江戸時代の終わりまでに完成していた菓子であるかどうかが審査される。「江戸時代の終わりまでに完成していたお菓子」との回答がソク答であったことからすると、和菓子屋とその業界では自明の基準なのだろう。

和菓子と洋菓子を時期で分けるという一見強引だが 甲 の回答を聞いて、かすかな失望を感じながらも大いに納得した。まずかすかな失望とは「時間で分けるなんて、やれやれ何といい加減な！」ということである。質問したとき、もしかすると和菓子と洋菓子を分ける本質的な基準、たとえば小豆を使うか、牛乳やバターやクリームが入っているかという明確な基準があるかもしれないと秘かに期待していたところもあったのだが、あっさりはずれてしまった。

一方、大いに納得したことについては長い説明が必要である。座談会で和菓子と洋菓子を分ける基準について尋ねたとき、そんな本質的な基準があるのだろうか、いやないに違いないと思っていたからである。本質的に分けられないからこそ便宜的に時期によって分けるしかない。「江戸時代の終わりまでに完成していたお菓子」という和菓子の定義をきいたとき、その鮮やかな手法に納得したのはそういう事情だった。「なるほど、それしかない！」ということだ。

ふたたびカステラに登場してもらえば、カステラはヨーロッパ渡来のナンバン菓子なのに、まるで和菓子の顔をしてふわりと皿に載っている。

鯛焼は小豆の餡が入っているから誰でも和菓子と思っているが、明治四十二年（一九〇九年）、東京に今もある浪花屋総本店が考案して売り出した意外にも新しい菓子である。「江戸時代の終わりまでに完成していたお菓子」という和菓子業界の判定基準に照らせば

和菓子ではない。たしかに餡が入っているところは和菓子だが、餡を包んでいる生地は饅頭の皮のようでありカステラのようでありクレープのようでもある。最近ではカスタードクリームやチョコレートクリーム入りの鯛焼もある。あれはいつたい和菓子なのか洋菓子なのか。

桜餅は江戸幕府八代將軍徳川吉宗の時代に江戸向島の長命寺門前で誕生した。和菓子業界の基準にびたりと当てはまる イ な和菓子である。しかし餡の小豆や砂糖も餡を包む関東風の薄焼きや関西風の道明寺の原材料である小麦粉や糯米も起源をたどれば渡来品である。桜餅の材料のうち日本のものといえるのは桜の葉だけだろう。数々の渡来品を国産品の桜の葉つばで包んだものが桜餅という和菓子なのだ。

このように和菓子かそうでないかを本質的に分けるのは難しい。いいかえれば日本各地で食べられるさまざまなお菓子を「江戸時代の終わりまでに完成していたお菓子」かどうかという便宜的な基準でとりあえず 乙 にしてひとくくりにしたもの、これが和菓子業界の定義による和菓子ということになる。

そこで次に考えるべきは、ではなぜ和菓子を本質的に定義するのが難しいのかという問題だろう。さきほど「江戸時代の終わりまでに完成していたお菓子」という便宜的な判定基準に納得した、その納得には「長い説明」を要すると書いたのは、和菓子の本質的な定義がなぜ難しいのか、その理由を探らなければならないからだ。

本質的な定義が難しいのは和菓子だけではない。同じく「和」をかぶせた和服、和食、和室、さらに「日本」をかぶせた日本料理、日本庭園、日本建築の「和」あるいは「日本」という言葉が抱えこんでいる問題でもある。和とは何か、日本とは何か。いいかえるなら日本はどういう国なのか、日本人はどのような人々なのかという日本人の本質（アイデンティティ）の問題なのだ。

【丙】

（長谷川権『和の思想 日本人の創造力』による）

問一 傍線部A・B・C・D・E・Fと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A ナンバン

- ① 試合のジョバン
- ③ バンユウを振るう
- ⑤ テレビのバングミ

- ② バンナンを排す
- ④ サクバンの出来事

16

B フキヨウ

- ① 会社の再建にフシンする
- ③ 新理論がフキユウする
- ⑤ モウフを洗濯する

- ② ロンドンにフニンする
- ④ フヨウ家族

17

C ソクザ

- ① 事態のシュウソクを図る
- ③ メロンのソクセイ栽培
- ⑤ キソクを改定する

- ② ソクタツ料金を追加する
- ④ ソクブツ的な生き方

18

D ヘンジョウ

- ① 気温のヘンカ
- ③ シャヘンの長さ
- ⑤ 本のヘンシュウ

- ② 「はい。」とヘンジをする
- ④ ヘンシヨクをせずに何でも食べる

19

E ホウカン

- ① 地球カンキョウ
- ③ 不要なカンユウは断る
- ⑤ カンキの舞を舞う

- ② 利益を社会にカンゲンする
- ④ 保健所がカンカツする区域

20

F カメイ

①メイロウ快活な性格

②太鼓作りのメイジン

21

③一生ケンメイ働く

④かたい約束を結んだ友のことをメイユウという

⑤提案にキョウメイする

問二 空欄

ア

イ

に入る最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

①典型的

②観念的

③幻想的

④具体的

22

イ

①典型的

②観念的

③幻想的

④具体的

23

問三 傍線部（一）「ふはふはとカステラ切らん花曇り」の俳句の季語（花曇り）が表す季節として、最も適当なものを、次の①～④の中

から一つずつ選べ。

①春

②夏

③秋

④冬

24

問四 本文の内容をふまえて、傍線部(a)・(b)の読みとして最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 便宜

①ベンジ

②ベンキ

③ベンギ

④ベンセン

25

(b) 生地

①セイジ

②ナマジ

③キチ

④キジ

26

問五 空欄

甲

乙

に入る四字熟語として、最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

甲

①以心伝心

②一石二鳥

③一目瞭然

④二律背反

27

乙

①和魂洋才

②臨機応変

③一意専心

④一刀両断

28

問六

傍線部(あ)「あるかもしれない」・(い)「いやない」・(う)「違いない」・(え)「それしかない」・(お)「そうでないか」に含まれる「ない」の中で、品詞の異なるものが一つある。該当するものを次の①～⑤の中から一つ選べ。

①あるかもしれない

②いやない

③違いない

④それしかない

⑤そうでないか

29

問七 傍線部（二）「下手をすれば座談会の根底を揺がし、冷水を浴びせることになりかねない」とあるが、その理由として、最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

30

- ①和菓子についての座談会であるにも関わらず、チョコレートやショートケーキなどカタカナで表記される洋菓子を多く取り上げすぎたから。
- ②カステラや金平糖は、和菓子なのか、洋菓子なのか、この際、はっきりさせておきたいという個人的な関心ばかりを優先させたから。
- ③和菓子についてのなごやかな座談会の席において、「和菓子と洋菓子は何によって分けるのですか。」と根本的な質問をしたから。
- ④和菓子についての座談会において、俳人である私の役割は、俳句と和菓子の関係について丁寧に語ることであつたと^はた^と気がついたから。

問八 最後の段落【丙】に入る一文として、最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

31

- ①皿の上の一切れのカステラが和とは何か、日本とは何かという大きな問いを投げかけている。
- ②和菓子の本質的な定義がなぜ難しいのか、その理由を真剣に探らなければならない。
- ③皿の上の一切れのカステラは、和菓子と洋菓子を本質的に定義する試みに、疑問符を投げかけている。
- ④和菓子を時期で分けるという考えに、現時点では消極的ではあるが賛成である。
- ⑤皿の上の一切れのカステラは、日本の和菓子の代表として、もっと世界に向けてアピールしてほしいと望んでいる。

問九 本文の内容と合致するものを、次の①～④の中から一つ選べ。

32

①カステラは、安土桃山時代にポルトガル人によってもたらされた菓子なので、洋菓子と呼ぶべきである。

②菓子と洋菓子を分ける基準は、最初に作られた時期で分けるのではなく、小豆を使うか、牛乳やバターなどを使うか、材料で判断すべきである。

③和菓子業界の判定基準に照らすと、鯛焼も桜餅も小豆の餡が入っているので、共に和菓子である。

④和菓子の「和」について追究することは、日本はどういう国なのか、日本人とはどのような人々なのかという日本人の本質（アイデンティティ）に迫る問題である。